

伊勢志摩区域連携型

認知症疾患医療センター長賞



「わたしの大切なひいおばあちゃん」

なかがわ ももな

浜郷小学校 六年 中川 桃菜

わたしには、たった一人のひいおばあちゃんがあります。ひいおばあちゃんはいつもにこにこしています。わたしが遊びに行くと笑って、

「ももちゃん来てくれたの?」

といつも言ってくれます。なのでわたしも、「うん。来たよ!」

と、言葉を返します。わたしはおばあちゃんにいつも学校の話をしませす。ひいおばあちゃんはわたしの話をずっと聞いてくれます。わたしはそれがとてもうれしかったのです。

でも最近、ひいおばあちゃんの耳が遠い気がします。少し大きな声で呼ばないと、なにも言ってくれません。それでも呼ぶと、

「なあに？」と、言葉を返してくれました。
ある日、おばあちゃんがおし車を使って
歩いている所を見ました。そのひいおばあ
ちゃんの顔は少しつらそうでした。

それを見たその日から、ひいおばあちゃん
の所に行った時はわたしも工夫してすの
背もたれを手すりの変わりのようにして
向きを変えたり、おし車の向きを変えて
おしやすいようにしたり、いろんな事をし
てあげました。

するとひいおばあちゃんが、

「ももちゃんいつもありがとう。」

と、言ってくれました。その言葉がむねに
すつと通りぬけていく気がしました。する
ととてもうれしくなり、心があたたかく
なりました。その時のおばあちゃんの顔は
いつもと同じでにこにこの笑顔でした。わ
たしはそれからも手伝いをしています。

でもわたしがおばあちゃんの所に行っても
部屋にずっといて「はんやトイレに行く時

だけおし車をおして歩いている日がよくあり、心配になりました。

「ひいおばあちゃんが動けなくなってしまうたらひいおばあちゃんはどうするんだらう。」

と、マイナスなことばかり考えてしまいました。

でもある日マイナスなことを考えなくなりました。それはなぜかと言うと、今を大切にひいおばあちゃんとすごして、プラスの事を考える方がいいと思ったからです。すると、マイナスな考えをしていて前よりも心が軽くなり、明るくなった気がします。

これからもひいおばあちゃんと笑ってすごしたいです。